

§ 9. 上部構造の評点 (Qd/Qr)

階	方向	壁・柱の耐力合計 Qw(kN)	剛性率 F _s	偏心率 床仕様 F _e	保有する耐力 edQu(kN)	必要耐力 Q _r (kN)	上部構造 評点 edQu/Qr	上部構造 評点 採用値
2階	X方向							
	Y方向							
1階	X方向	43.26	1.00	1.00	43.26	45.51	0.95	●
	Y方向	51.88	1.00	1.00	51.88	45.51	1.13	

※●は全評点の最小値を示す。

§ 10. 総合評価

上部構造評点	評点	判定
0.95	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○一応倒壊しない
	● 0.7以上～1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

その他に、以下の部位が大きく壊れる可能性があります。

部 位	箇 所 など
() ①地盤の崩壊等	
() ②基礎の損傷・亀裂等	
() ③水平構面(床や屋根)の損傷	
() ④横架材接合部の外れ	
() ⑤屋根葺き材の落下	
() ⑥柱の折損	

【各部の評価】

項 目	評 価
偏 心 Fe	1.00
評 点 edQu/Qr	0.95

<その他注意事項>

倒壊の恐れがある診断となりました。
 図面にて基礎の配筋が確認できませんでしたので、無筋のコンクリート布基礎として診断しました。評点が悪くなりました。
 筋違い金物はプレートにくぎ打ちの接合金物を使用しています。
 横架材にほぞ挿し、かすがい打ち工法です。
 屋根下地は板貼りです。
 火打ち材は90×90の木材で2間四方に4か所程度入っています。
 補強方法は以下が考えられます。

筋違いなどの耐力壁を増設する。
 柱の柱頭柱脚金物をセットする。

増築前建物の東外壁、西外壁の斜めになっている外壁は本体から持ち出し構造となっており、直接支える基礎がありません。
 持ち出し部分の構造の補強が必要です。